

2023年1月4日

2023年 社長兼 CEO 年頭挨拶（要旨）

日立造船株式会社 社長兼 CEO 三野 禎男の全職員向け年頭挨拶の要旨について、下記のとおりお知らせいたします。

1. 2022年度の当社グループ業績について

2023年3月期の業績見通し（連結）については、受注高を5,800億円、売上高を4,800億円とそれぞれ期初見通しより上方修正しました。受注高、売上高に加えて、営業利益についても200億円の期初見通しの超過達成をめざして、最後までチャレンジしていきましょう。

環境セグメントでは、好調な受注が続いており、数多くのプロジェクトが同時進行することとなります。体制整備や要員の確保、並びにプロジェクトフォローやリスク管理の徹底をお願いします。

機械・インフラセグメントでは、電子部品の長納期化や価格高騰への対応、顧客ニーズや気候変動対応などのインフラ整備の需要への対応などを含め、受注、収益の拡大に取り組んでください。

脱炭素化セグメントでは、2つの大きな変化がありました。今治造船株式会社と合意した船用原動機事業新会社での合併事業を通じて、海運・造船業界の脱炭素化の流れに対応した事業発展が図れると確信しています。東京電力ホールディングス株式会社と設立した原子力使用済燃料のキャスクやデブリを収納する容器を製造する新会社「東双みらい製造株式会社」では、福島復興に貢献していきましょう。

2. 中期経営計画「Forward 22」の進捗状況と今後について

Forward 22 で定めた3つの基本方針それぞれについて説明します。

- 製品・サービスの付加価値向上

ごみ焼却発電事業の「AIによる状態最適制御」、プロセス機器事業の「PAUT検査」、水門事業の「診衛門」など、IoTを活用したサービス事業が立ち上がってきています。今年も「DX」戦略を重要施策として継続して推進していきます。

- 事業の選択・集中の推進とリソースの伸長分野へのシフト

脱炭素社会からの実現、資源循環経済移行への対応の視点から、事業の創出、再編、撤退、戦略的パートナーシップ構築など、ポートフォリオマネジメントの一層の推進に向けた検討を進めていきます。

- 業務効率化・生産性向上による働き方改革の実現

現場とICT推進本部が協力し、業務効率化の取り組みを進めています。現場の実態に合わせた対応を図り、確実に働き方改革を推進していきます。

また、昨年は「健康経営戦略マップ」を策定しました。健康経営レポートなどによる情報提

供、生活習慣病予防やメンタルヘルス対応策などを推進し、職員一人ひとりが心身ともに健康な状態を維持し、働き甲斐を実感して最高のパフォーマンスを発揮できる職場の実現、個人と社会がともに成長する好循環を生む健康経営の実現に取り組んでいきます。

3. 2023年の重点方針

「グローバル展開」「DX推進」「人的資本の充実」の3点に注力します。

グローバル展開については、海外事業拡大に必要な人材の確保に向け、人材プールの状況や研修プログラムの整備などの育成施策を検討しており、新たなグローバル人材育成研修の導入を計画しています。

DX推進については、経済産業省が定める「DX認定制度」に基づくDX認定事業者への認定、DXリーダー研修開始など、2022年は当社のデジタル元年とも言える年でした。今年も、第2期DXリーダー研修に加え、全職員のデジタルリテラシー向上を図る取り組みも考えています。

人的資本の充実については、当社の持続的な成長のため、経営戦略、事業戦略を実現するための人材確保、育成、定着のための人材戦略が重要であり、次期中期経営計画では達成すべき目標の明確化や指標化を行い、着実に人材戦略を実践していきます。

最後に、残り3か月、挑戦の精神を忘れず、「私がやる！踏み出す一歩が未来を変える」のスローガンのもと、「Forward 22」の総仕上げを行い、2023年度からスタートする次期中期経営計画に確実にバトンを渡せるよう、明るく、元気に頑張っていきたいと思います。

(終)